

キャラクター名
 猿澤伊瀬

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ	ワークス	高校生	カヴァー	高校生	
	エンジェルハイロウ		年齢		18	性別
オプション	覚醒	渴望	衝動	嫌悪	初期侵食率	32%
出自	母親不在	経験	喪失	邂逅	友人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	20
感覚	6	0	3			9	(非装備時)	20
精神	2	0	0			2	戦闘移動	25
社会	0	0	1			1	全力移動	50

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
守護者の後光	RC	9r+2		2+15		対11。全乗せ。C値8、攻撃+17、同エン不可
守護者の後光@100	RC	9r+2		2+18		対11。全乗せ。C値7、攻撃+20、同エン不可
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0	
ロイス		対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
		猿澤庵	P 庇護	N 食傷		
		昇華)化物	P 執着	N 脅威		
		二宮神五	P 友情	N 悔悟		
		2045	P	N		
		ノイ	P	N		
		サイ	P	N		
		ウィスパ	P	N		
最大財産P:	2	残り財産P:				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
拒絶の後光(1)	1	6	オート	至近	自身	自動	120%	
効果: HPダメージ適用直前に使用。ダメージを0にする。使用直後に[アージ]暴走を受ける。シナリオ1回まで。								
破壊の光(5)	2	2	Xジャー	視界	範囲選択	対決	-	
効果: 攻撃力:+2の射撃攻撃。同エンゲージ不可。シーンLV回まで。								
光の手(1)	1	2	X/リ	-	-	-	-	
効果: 組み合わせた判定を【感覚】で行う								
幻惑の光(1)	1	2	Xジャー	視界	-	対決	-	
効果: 命中で対象に放心付与。								
コンセントレイト:エンジェルハイロウ	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果: C値を-LV								
滅びの光(3+2)	5	3	Xジャー	-	-	対決	-	
効果: 攻撃力+LV*3。「対象:単体」不可								
七色の直感	1	-	Xジャー	視界	単体	自動	-	
効果: 互換の認識を関連付けて、対象の感情をオーラのように読み取る。とはいへ違和感を覚える程度だ。								
異形の痕	1	-	オート	至近	自身	自動	-	
効果: オーヴァード化により特徴的な異形を得た。半年前に受けた傷から光の粒子が零れ出す。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「インクィジティブスプーキー」用
 さるさわ いせ

高校3年の一般人。
 私/あいつ、あんた。
 少々粗暴な喋り方や態度を取るがそう見えるだけで、内心はあまり人を嫌ったり馬鹿にしたりするような性格ではない。
 人を観察し、適宜応答したり介入したり、なるべく場が乱れないように動ける。

幼少時に病気で母親を失っており、男手一人で育てられた。
 ……とは言うものの、日常的に女装し女性として振る舞い夜の蝶として働く彼は「父」とは呼ばせていない。
 「母」とも呼ばれたいと駄々をこねた結果、伊瀬は彼のことを「庵ちゃん」と呼んでいる。
 正直面倒くさいと思いつつ、嫌っているわけではない。身内故の辛辣さと親密さで接している模様。

親友の神五とは昔からの幼馴染みであり喧嘩仲間。
 趣味や性格などはまるで合わないが、物の考え方はどこか意気投合できる場所があった。
 そのため頻繁に言い争いが起きながらも仲違いすることなく、気が済むまで言い合ったら話題が変わる、ということがよくあった。
 喧嘩には口だけでなく手も足も出る。男女の差もあるのに遠慮なんてなかった。
 だから武術をやっていたわけではないがそれなりに戦えると思っていた。
 まさか一切の太刀打ちができない化け物に襲われるとは夢にも思っていなかった。

あいつは死んで、自分だけが生き残っている。
 私を庇って、目の前であいつが死んだ。